

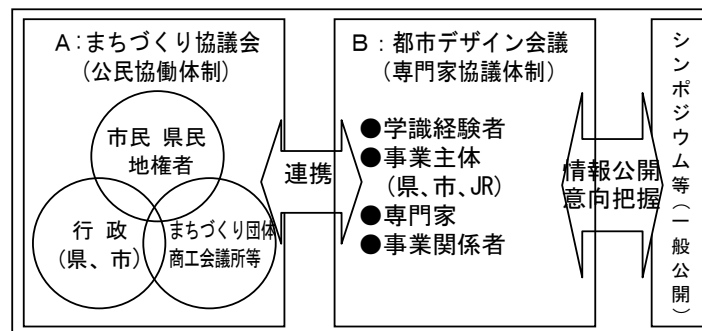
提言 7 持続可能なまちづくりのソフトウェアを形成 ～ソーシャル・キャピタルとしての人的ネットワークを育成する

(1) 共有化された目標像を実現するためには、住民・市民、関係者、専門家等がともに協議する場が必要

●公・民・業・学・専の協働体制

- ・将来目標像を関係者により共有し、これをもとに駅及びこれに関連する各施設が、安全に、利便性よく整備されるとともに、駅・まちに係わる公共施設・民間施設が総合的・一体的な景観デザイン設計により実施される仕組みを構築することが重要である。
- ・そのためには、公（行政）、民（市民・住民・利用者）、業（鉄道事業者、民間開発事業者）、学（学識経験者）、専（専門家、コンサルタント、設計家）が互いに協働して計画を練る場を持つことが必要である

参考事例：日向市駅周辺地区における検討組織



駅を中心とした周辺街区に公・民・業協働で豊かな空間を生み出し、まちづくりに繋げる
(宮崎県・日向市駅)



(出典：「日向市駅」パンフレット)

(2) 将来にわたってまちづくりを持続可能にさせる信頼関係と、相互に顔の見える人的ネットワークの育成が必要

●ハード的空間整備をまちの活性化に活用するソフト的仕組みの育成

- ・ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）という概念は、市民の自発的行政参加や市民団体と行政による協働のまちづくりを推進するための原動力となる地域力の基礎をなす概念として注目されており、人と人との間に存在する信頼、つきあいなどの人間関係、地域コミュニティ組織やボランティア組織などを含むものである。
- ・これが豊かであれば、人々は互いに信用し自発的に協力しあって、まちづくり課題の最善な解決策を探り、まちづくりは将来に向けて、公民協働により持続することが可能となる。
- ・そのために、事業推進のプロセスにおいて「まちづくりに関る多様な自発的団体」や「地域全体の豊かな人間関係」を育み、地域社会の結束力を高めていくことが重要である。
- ・地域の課題解決やまちづくりについての討議や協働を通して、地域住民、行政、事業者、学識、専門家集団が、互いに「顔の見える付き合い」をすることで初めて、そうした人間関係が貴重な「人的ネットワーク資源」となる。
- ・また、駅を中心とした市街地に集まって暮らすというコンパクトなまちの空間構造自体が、コミュニティを醸成する可能性を秘めており、これらソフトとハードとの相乗効果を生み出す視点がこれからのまちづくりには必要となっている。



杉コレクション表彰式



子どもまち育て隊



まち育て隊



駅前、高架下でイベント開催

日向市におけるまちづくり市民団体

●日向木の芽会

- ・橋の手摺り、街路灯、ベンチなど、杉材を使用したストリートファニチャーの市民によるメンテナンス

- ・杉材を使った駅やストリートファニチャーのデザインコンテスト（杉コレクション）開催

●街を育てる会（まち育て隊）

- ・中心市街地の清掃活動
- ・リサイクル活動 等

●子どもまち育て隊

- ・10～15歳の子供によるまち育て隊

●まちなかハロウィン実行委員会

- ・ハロウィンイベントの開催（子供たちも企画に関わる）

●商工会議所、商店街振興組合、商店会、等

- ・各種街なかイベント、市などの企画運営

（出典：日向市パンフレット）